



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究 第9巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	『鈴木栄太郎著作集 7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
Issue Date	1961-02-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77588
Type	manuscript
File Information	I012_019.pdf



9

HA 4

(12)

NOTE BOOK

國民社會の研究
才九 六

昭和三年一月一日

9

あゝが

し
の
ま
ま
の
し
ま

たのく
12、
2、
と
と
政

統治の中心と末端は人ではなく、
機械であらうかと思ふ。

中心には感情が動かない。操るために、
世に之は電子計算機の様な機械と
あるべき望む。末端は公平と
期す。為に機械であるべきを望む。
中心と末端との中間で所謂政
治家はたしかに合つたらう。

甲へと未だ

国家統治者は国家内にあり利用
し得るもの物と努力をことごとく吸
い上げ、帝が希望する。吸いあげ
たものをも如何に利用するかは其の
同じである。自らも民族や一族が
利用するものは充分に足りあ
る。たゞたゞは直友の部下に於て
次に部下以下の統治者層に於て
直友は余りたるところから統治の
ための設備の整備のため又統治
に對する反対派の抑制のため用い
た。尚ほ余りたものがあるはずで

れはなぬ。おは一蓮托地しと云ふのが
江戸時代の案の。お中の勢と勢力は
錢との直前まですい上げられ。藩
にすい上げられ。さうかい口の中へは
達した。村の中へは信義と愛憎
とであらう文の上をすいた。さうして
結ばれ。大江戸政府。そのおは
家におはる。孝。藩。おはる。思
か絶対信頼であつた。それで吸い上
げ。おは。文。吸い上げられ。
明治になつて。明治政府と姓と資
本の成金は。家を足場。おは。力と物

を暇いあけたり暇いあけた

この場合にはもう自然村内の道義的

帰力は同じと云わす。中や工業の

資本家は家を造して家族の

労力をお嫁に勤めさせ、収穫した

江戸時代には村の納貢米をもれなく

収穫するものは村内の仁義情け

を物用した。今の工場主が世間の

労働力を物用する。世間は父兄に対するお嫁の孝

心を物用する。父兄に対するたりたり

自然村の村はず道よりある。

自身近隣の丁史は大地の改新の

此から漏れなく収斂するものの如く

である。 納豆の定額

江戸時代の五人組は相互監視の

治安の維持に努めた。 降参

相互監視の公衆を維持する

江戸時代は非暴力主義を堅持する

ある。 生産強化達成後にも

江戸時代は非暴力主義を堅持する

江戸時代は非暴力主義を堅持する

江戸時代は非暴力主義を堅持する

江戸時代は非暴力主義を堅持する

江戸時代は非暴力主義を堅持する

江戸時代は非暴力主義を堅持する

江戸時代は非暴力主義を堅持する

江戸時代は非暴力主義を堅持する

江戸時代は非暴力主義を堅持する

江戸時代は非暴力主義を堅持する

一、統治階級の生活下部構造の上部

構造の下部

一、統治階級の生活下部構造の下部

政治的

一、政治的の下部構造の下部

一、政治的の下部構造の下部

一、政治的の下部構造の下部

一、政治的の下部構造の下部

一、政治的の下部構造の下部

何

日本国民生活の實際的研究

一、国民生活下部構造の下部

の発展（米文化経済構造中）

二、社会下部構造の下部

形式の工業的発展

三、社会的基本的枠組としての国民

統治組織の工業的発展

五、現在時代における生活下部構造と

生活下部構造の下部

枠組及び標記の上部構造の完全な

現解を統治組織の最下部に

一、現解する事

四、国民生活上部構造の発展

15
 社屋を以て経済論の基本的制約
 条件の記する事は、既に丁史の野
 心経済の存在丁史の進行の上にたか
 なりぬはたしめ事と、横に口を
 記す内の均等の秩序の内外が
 一にたかめ事は何ともしは要
 のすであらう。前者は後述の戦
 後ルがけ、記す物なる発展が教へ
 るもので、前者は主としてバリス
 義経済の発展の唯特能経済
 諸史の史的見解に、主としてある
 故に、主としてバリスの記
 本体制の経済に、主としてある
 かつて、主としてバリスの記
 の中に、この二つを共に回し

あつた。彼はたしか *principal state* といふたが、その極盛は金と鉄が

of society to be
expressed

九。 練は五
水手六
七
八
九
十
十一
十二

浮人土標

state of society

1. ソノ
スの
可
習
法
を
体
制
7-
あ
+

これに
ゆる
は
そ
の
張
席
の
双
座
に

下は先づ下へ、
左の中心の
イロハの

て
る

り
ら

の

[あ]
け
け
く
ふ
ち

72

近世にあはれ、我々もその一環である。
其の成否は、是程に結ひつゝ、その中よ
うに解さるゝ場合が多いし、又その

新勢力
又は西

伴に新思想(資本主義の合理的
主義と封建的階級的保守主義)の対
立調和の均衡を呈露しては政體
されぬ場合が多い。要するに
他山の石なる象は縦横の強
い制約の中に老練さよすた
あつたと考へるは原則には
全く服しかたない。然し丁半の義
に他族的社會よりも有し。現
在の北米國体の均衡の内に感情を
含めはゆかへたがれつゝある
修正した整理して考へし條々のほ
丁半的社會をいふあり。その
象徴的象を多く親戚の内に好

め、実證は、社会の外に、
神か、口説き、
制約は、ついで、
多量には、
その制約を、
より強く、
め、
認め、
そこ、
ある。

何れかの項
 といふ事務を行ふのか。頗るなほ
 先月又は昨年申す所事務
 の実績如何

統治末端活動の实例

曲柄に力け、町村組織と農協と
 協力関係は内容要略を以て
 際、況見、組合関係、力強に
 然し、農協と農民の関係の内容
 及び、農協は示して置く
 村行政と農民の連絡、関係は
 である。
 農村にあり、統治の末端の活動
 総合的に漏れなく見ざるが重要
 である。
 役場を通じて主幹は農協と不可
 分である。たゞ、漏れなく見ざる不
 可である。又、役場を通じての末端
 である。

「民社会学原理」目次

一 方法論 実証的觀察、記述、推論、比較、分類

二 民社会の概念 社会、社会性、社会生活

三 民社会構造 社会生活と社会生活の環境

四 国家統治構造 統治機構、統治の過程

五 民生生活 社会生活と社会生活の環境

六 民生生活 社会生活と社会生活の環境

七 民生生活 社会生活と社会生活の環境

八 国家統治構造 統治機構、統治の過程

九 民生生活 社会生活と社会生活の環境

十 国家統治構造 統治機構、統治の過程

十一 民生生活 社会生活と社会生活の環境

十二 国家統治構造 統治機構、統治の過程

三 国家統治構造 統治機構、統治の過程

四 民生生活 社会生活と社会生活の環境

五 国家統治構造 統治機構、統治の過程

六 民生生活 社会生活と社会生活の環境

七 国家統治構造 統治機構、統治の過程

侵害

その最高のものでそれを郵送する力は
有しないと考へてゐる。これは
口藉も知り下二年に藉はあり
後知りのと考へてゐる。口家の意
は皆それと絶対のものでゐる。
その自主性を尊重するところから
世界の法治的平和が得られる。
人は何れも口家が可なり。口藉の
ない人は一人もあつた。かくとも何
れ口家にも所有する土地は地球と
にはあつた。人が何んといふ土地は多く
何れかの口境内にある。

口藉と口境によつて人の口籍への所属
は明白である。さればこそ人の生活
活動は明白に制限されその口籍と
口籍をこえようとは最し難いであらう
いふ。口籍を介して所在の国家の
義務が見えぬと云ふ事である。

共同生活、基礎となる金銭的、
はたして国家の定結めめの保障
としての相互の域壁と見よう
口籍と金銭的域壁と見よう
口籍の果ての取扱いを
進めしむるところは根本的に

口尾の合にわけ、言語秩序

口尾の合にわけ、言語秩序も見出し。
 可なりはた。言語秩序も

1. 方言地帯

2. 階層

3. 職業語

4. 日本国和語他語
 5. 方言の語彙の整理と改訂の
 ための研究

内容を明かにする必要がある。

口説先生の不勤

政治が、人々に受けては民にけの
 口民はとんな改張の
 下で、一計業に修事したかゝる
一又法会の拘束を力なかにせよ
 法会に拘束す他人のものといひ
 妻に就きて仔細を告げし。
 政治自由になりて然るうへも底
 し、想ふがある。

交易之生學上所論不便

口民市場における在野の活動
あゝ、この生産過程が、生業
であらう。信託と縁故とを生業に
変換の機軸がある。これを生業といふ
ものであろう。

[illegible]

マルタスとミゼスの倒付と新構造
 とはミゼスがマルタス精神の転写
 をなしたものである。マルタス物
 質主義のミゼス逆のミゼスは

還つてゐる。西義や印政の死を
とんきに歸し秋もあさか。
昔者と今を度しとんを形つてか
のりつた。お、おのりつた。おのりつた。
いふいと。いふいと。いふいと。
た。ハ。

生等

人が金をあつて四角く川も。の
度か人が休賃をわしく川も。の
かが生等である。人になものか
等。後が生等である。交易の賃賃
あるもの生等が等能が生等である。

統治組織の崩壊に口民の叛反代
に負かすつれと直ちに口民は叛反
代す。我々の多様なは彼自身
者なによる場々あるが固剛よりの
抑鬱々たる場合も少なくない。
おまゝに界に新組織を輸出す
に民は難い。

天六、八月

中央で争奪と地方の政案のズレが
政治者達の失敗の理由

地方党民 ^{又は} 民衆が喰いつく

くさじかたなり思つて連立を結ぶ

入定 ^は 民衆をなやました

今では二元制の解と政治が分

わかれつつあり二つの矛盾のしとある

いとなむを解ふかは国民の自由の

判断にまかしてゐる。しかも当然に

又山のりの期付をやり行なす

強 ^{指し} 制してゐる場合が多い。親が

人切に對する態度である。

豊王、漢王、大造等へするものは

大

大分北

親工場

本工

大分北健保

豊

工

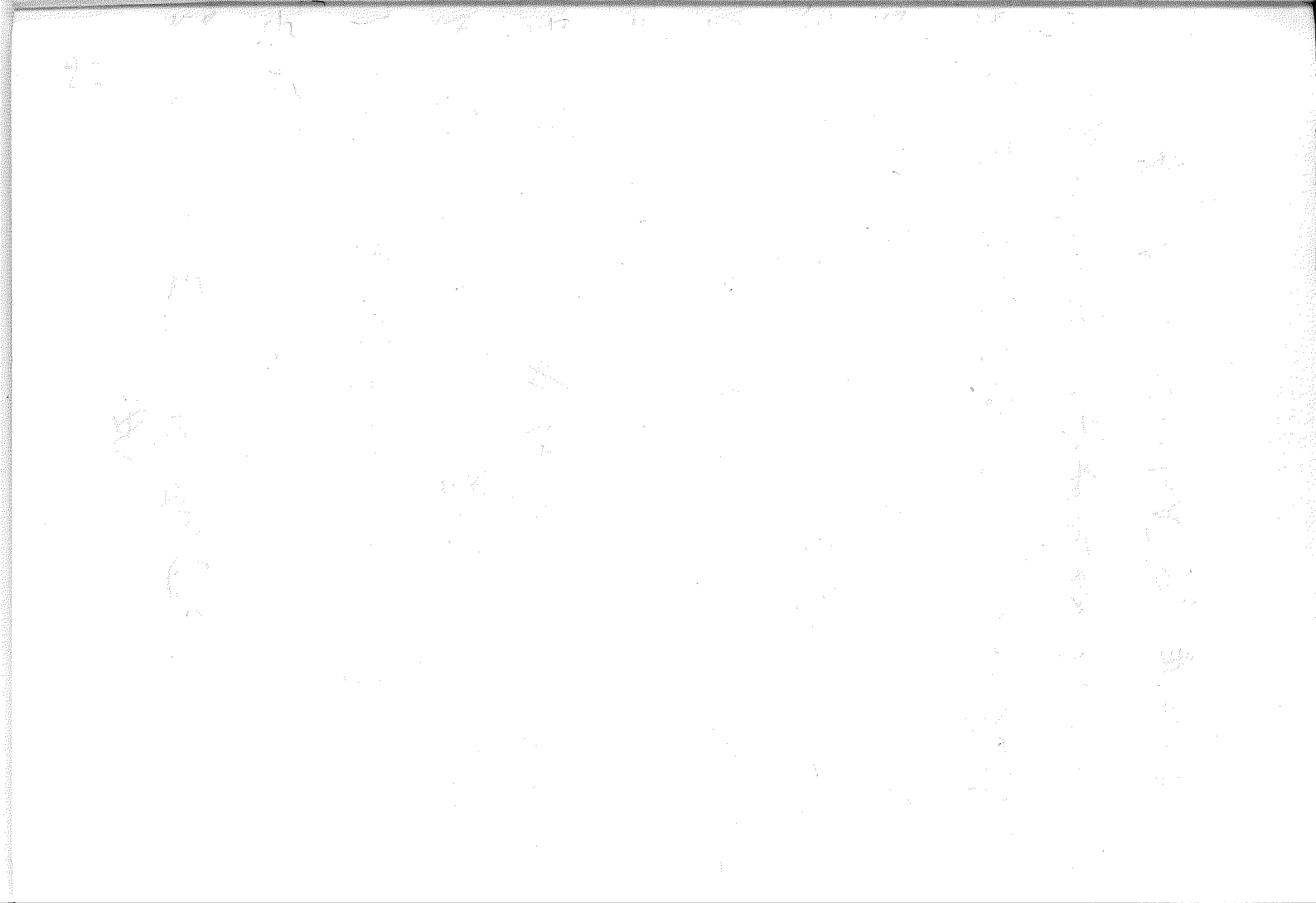
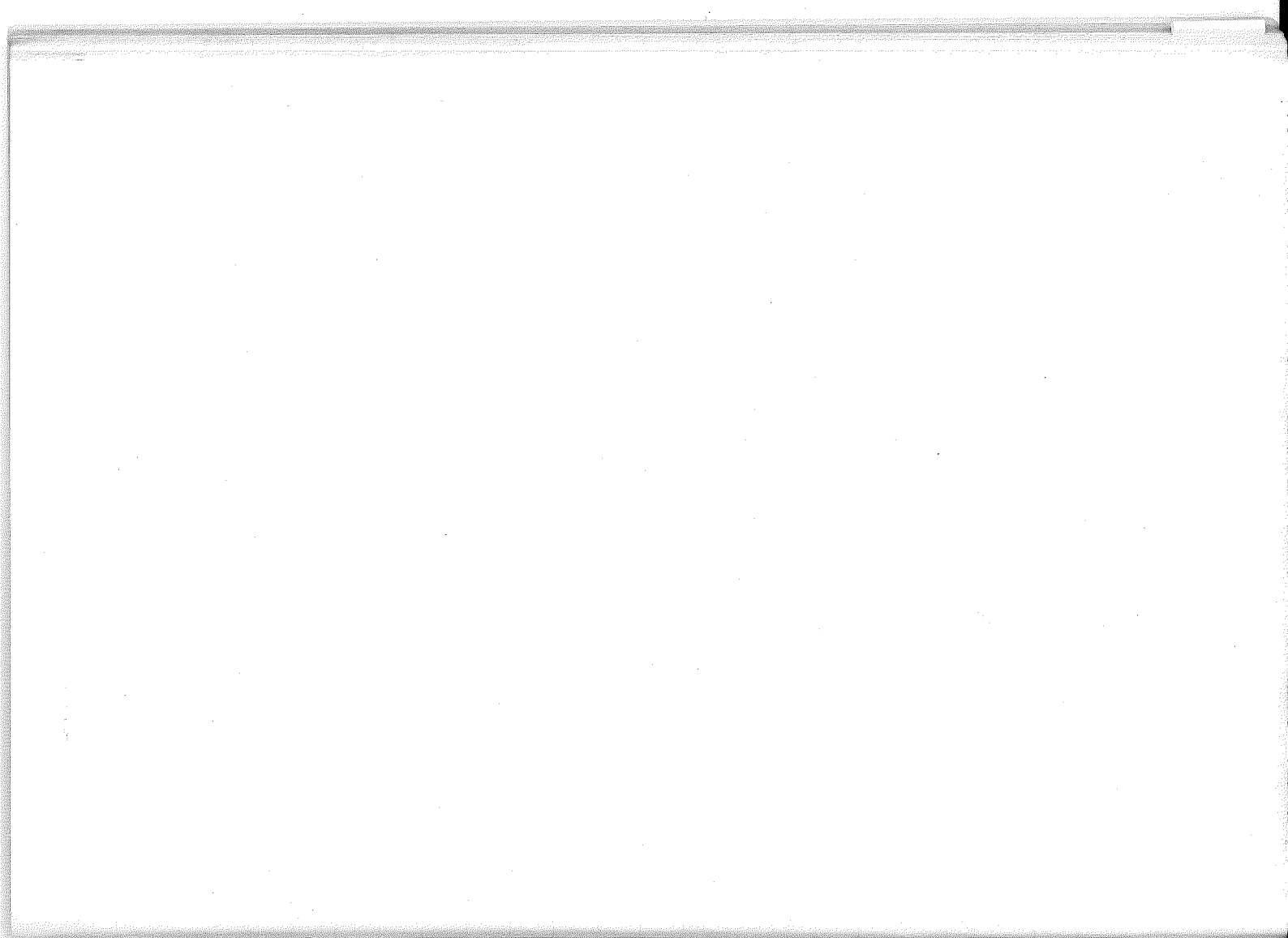
労働

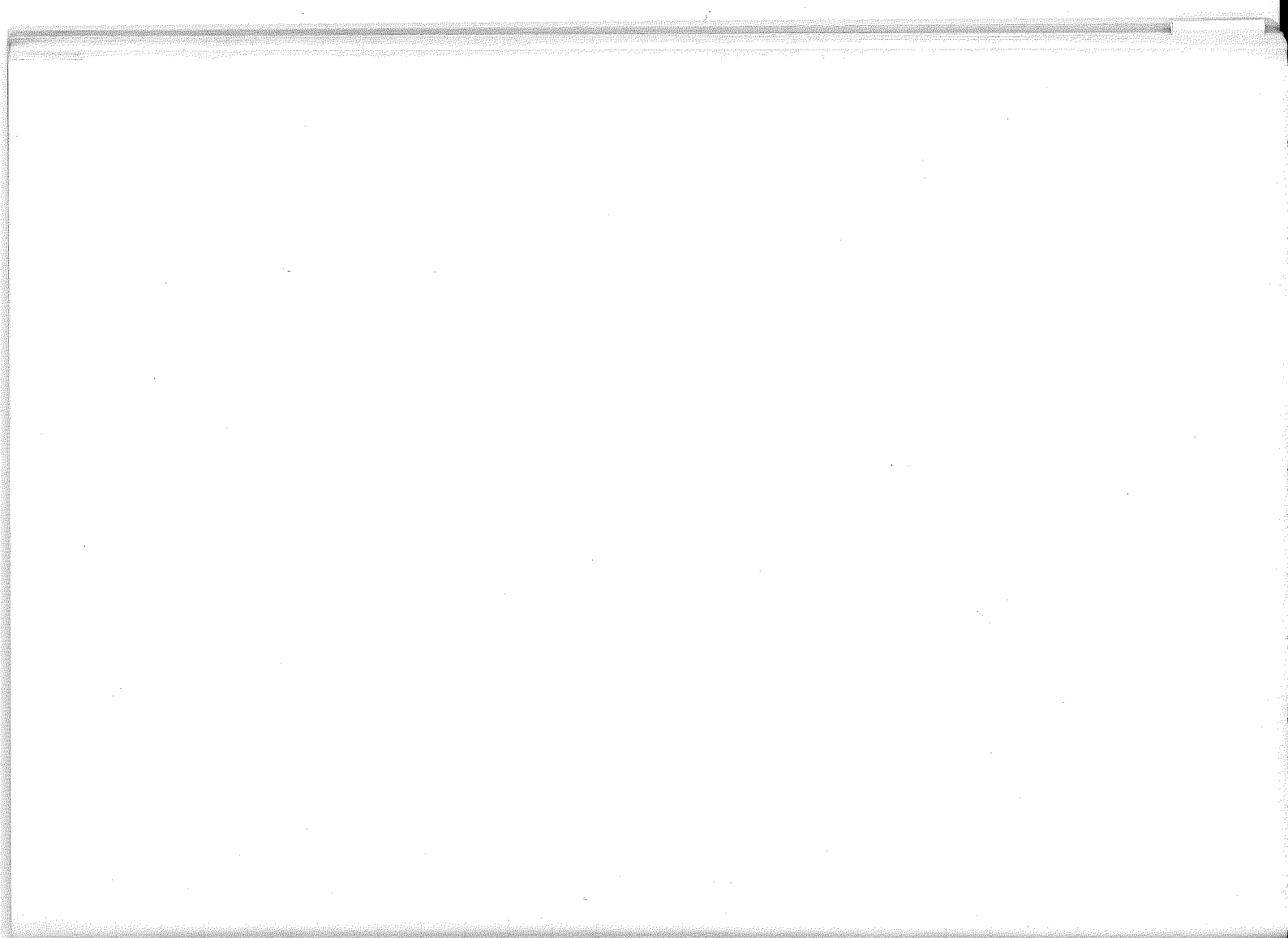
皆保

案え、お漢本のものには皆に落しつゝある。
政治本大漢本とのみ協力して計畫し
ていふからである。

04
37

Handwritten Japanese text in cursive (sōsho) style, arranged in vertical columns. The text is faint and spans across the bottom half of the page.





Handwritten text in a cursive script, likely a ledger or account book. The text is arranged in columns and rows, with some entries appearing to be dates or numerical values. The handwriting is somewhat faded and difficult to decipher in many places.

Visible fragments of text include:

- Top row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...
- Second row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...
- Third row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...
- Fourth row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...
- Fifth row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...
- Sixth row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...
- Seventh row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...
- Eighth row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...
- Ninth row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...
- Tenth row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...
- Eleventh row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...
- Twelfth row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...
- Thirteenth row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...
- Fourteenth row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...
- Fifteenth row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...
- Sixteenth row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...
- Seventeenth row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...
- Eighteenth row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...
- Nineteenth row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...
- Twentieth row: ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ... 17 ...

Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a diary or letter. The text is written in cursive (sōsho) style. The columns are arranged from right to left, with the rightmost column starting with '今日' (Today) and the leftmost column ending with '終' (End). The text is somewhat faded and difficult to read in some places.

28